

第9回交通政策審議会航空分科会基本政策部会

日時：平成25年9月26日（木）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎3号館 11階 特別会議室

主なご指摘：

＜今後の進め方についてのご指摘＞

○地方航空ネットワークの維持方策については確かに中間とりまとめで一定の方向性がまとまったが、維持すべき地方路線の評価などについては今後も引き続き議論すべき課題である。

＜今後の首都圏空港のあり方についてのご指摘＞

○羽田に関しては、今後設置する技術検討小委員会で、東京上空の活用など従来タブーとされた課題も検討してもらいたい。その他、空いている時間帯の活用、深夜における空港の魅力の向上など様々な課題がある。成田に関しても、成田をハブとするエアラインの取り込み方や深夜時間帯の取扱いなど課題がある。

○中長期の課題と2020年の東京五輪に向けた課題は分けて考え、後者については空港のハード・ソフトのほか、地上アクセスなどを含めトータルで考えるべき。財源の問題もいずれ詰めていく必要がある。

○違う視点として、静岡・中部・関西の各空港と首都圏空港との関係がどうか、競合関係か補完関係かといった論点もある。

○今回示された需要予測に関して、従来の予測が当初の見込み通りになっていない点をどう考えるか。今回の予測の限界についても説明がいるのではないか。また、仁川との比較について、容量面に重点が置かれているが、乗り継ぎの容易さや航空会社の負担軽減なども考えることが必要。今後の検討の進め方について、航空会社が関与するステップは重要。

○需要への対応に関して、「増加するものに対処する」という従前の発想に留まっており、質的な利用者の満足度に関する視点が不足。また、オールジャパンで検討すべき課題が少なからずあり、空域やビザの問題など、国交省だけで対応できないものを整理することが必要。また、仁川との競争を考えるのであれば、韓国の行政が何を考えているのか、審議会ですらどういった議論がされ、日本をどう見ているのかも知りたい。

- 騒音や空域の問題は、比較的対応できるものだと思うので是非検討されたい。ドバイの深夜は非常に賑わっていた。深夜時間帯の空港の活性化はアイデア次第だが重要。また、仁川との比較は容量のみでなく、質的な面で安さや利便性も一つの視点。さらに、需要予測に関しては、受身の予測のみでなく、どう人を動かしていくかという戦略も必要。
- 首都圏空港の容量を75万回にするというのは、以前から粛々と進めてきたものであり、東京五輪の決定に対応したものと受け取りかねない報道があったが、ミスリーディングである。また、利用者の満足を考えるべきであり、便数を増やすのはいいが、定時性などに影響を受けないか。
- 事務局説明で今から10年以上前の首都圏第三空港の検討に触れられているが、10年経てば様々な物事が変わる。一番大きな変化は外環道・圏央道等の首都圏の道路ネットワークではないか。その他の諸々のことが相当大きく変わることは念頭に置く必要がある。
- 仁川の後塵を拝しているという話が多いが、羽田・成田の優位性に着目したアクティブな発想があるべき。
- 海外の空港は国を挙げて内外の航空会社に対し積極的に働きかけるマーケティングをしており、日本はそうした面が不十分だと思っていたが、日本の場合は容量の制約から積極的な呼び込みをするに至らないのだと理解した。
- 基本政策部会で議論すべき事項について官民の役割を考えるべき。サービスに関しては民の領域であり、官の役割はバックアップ。需要予測に関しては、四段階推定法には限界があることがわかっており、目標に向かって現在取るべき策を探るバックキャストの手法も合わせて考慮されるべき。また、予測の前提において供給行動を考慮することが難しい一方、直近の旅客変動は供給側の状態に左右されてしまう点が悩ましく、どう使うかを考えていかなければならない。
- 首都圏空港から仁川乗継を行う旅客のデータについて、旅客の旅行目的等の詳しい分析が要るのではないか。また、訪日客への言及が多いが、国内旅客のことも考慮するべき。なお、東京五輪の影響については一過性のものだと懸念するが、むしろ、地方空港から入国して東京へ向かうような旅程の組み方を促せば地方の活性化につながるのではないか。

- 飛行ルートや深夜時間帯の問題は関係者の合意形成が非常に難しいと思われるが、制約が解消された場合にどれほど利用者の満足度が向上するかをはっきり示すことが重要。
- 首都圏の問題というのは航空行政において非常に重要であり、政策効果は大きいと思われる。技術検討小委員会には大いに期待するが、ハード整備の話と財源の問題はセットであるし、空域の問題も注目すべき。
- シンプルに考えれば、短期的にはピークロードプライシングをして資金を集め、容量拡大に投資すればよいように思われる。羽田と成田の役割分担について、国内線は新幹線の整備で頭打ちとなるが、国際は増え続けるというアンバランスも考えて議論することが必要。
- 五輪との関係でいえば、旅客総量で見たときに過剰に大きな影響があると考えする必要はないが、各種の政策課題を考える一つの契機とすべき。「空港群」というものをどう考えるか、国ごとにポリシーの違いはあるが参考にしつつ議論する必要がある。また、ハードと比ベソフト施策は簡単だと見られがちだが、それは幻想であり、詳細検討と準備を要する。

以上